

ライトノベルと近代文学における単語の違い

上吉光 23B10495
東京工業大学工学院

1. はじめに

「ライトノベルと近代文学の文章における違い」を調査するため、文章に登場する単語について調べることとした

2. 方法

「AIテキストマイニング」
(<https://textmining.userlocal.jp/>)を用いてライトノベルと近代文学作品を3篇、合計一万字に登場する名詞、動詞、形容詞の種類を数え、三千三百字での平均を表にまとめた。

3. 結果

表1: 出現する単語の種類と出現回数の合計

品詞	ライトノベル		近代文学	
	種類	出現回数	種類	出現回数
名詞	217.7	375.7	291.0	472.0
動詞	117.3	218.3	128.7	249.7
形容詞	25.7	41.7	28.7	49.3

どの品詞においても、登場する単語の種類はライトノベルよりも近代文学の方が多くなっていること、出現回数においても同様の傾向が見られることに留意されたい。

(ライトノベルには、羽田宇佐 (2023)「週に一度クラスメイトを買う話」KADOKAWA から第1話、第2話、第5話を対象とした。
近代文学には、夏目漱石 (1976)「文鳥・夢十夜」新潮社 から「文鳥」の前半部分、「夢十夜」の第一夜から第四夜を対象とした。)

4. 考察

ライトノベルと近代文学の間における最も顕著な違いは挿絵の存在(一部例外あり)と考えられるが、文章に登場する単語にも違いが見られることが今回の調査で分かった。

明らかになった点は以下の通りである。

- どの品詞においても出現する単語の種類は近代文学作品の方が多いこと
- 出現回数も同様に近代文学の方が多いこと

調査した対象文献はライトノベル、近代文学とも約一万字であり、文章の長さによる差は無視できる。なぜ同程度の文字数であるにも関わらずこのような差が表れるのだろうか。具体的に出現する単語を見てみると、ライトノベルにおいては「クラス」「スクールカースト」等の三文字以上の単語が複数回登場し、「足」等の漢字一字の単語の登場は少なくなっている。また、カタカナからなる単語の登場も多い。一方で、近代文学においては、「侍」()名詞として使われる「上」等の漢字一字の単語の種類、出現回数が卓越している。このような違いのため、字数当たりの単語数が多くなるため表1のような違いが生まれると考えられる。

他にもライトノベルでは「」を伴う会話が多くなっていることも寄与していると考えられるが、本調査においてはこのような記号は対象外であるため、さらなる調査が待たれる。

5. おわりに

本調査では、ライトノベルと近代文学から3つの文章、計一万字を対象に自立語の単語数を計測したものである。調査対象の作品が多くないことから、明らかになった違いが普遍的なものではないという批判は免れられない。しかしながら、時代を経て使用される単語の変化を考えれば、ライトノベルと近代文学には字数当たりの単語数は近代文学の方が多くなっていると考えられるだろう。

文献:
久米依子 (2009) 研究展望 ライトノベルと近代文学は異なるか 昭和文学研究.